



新橋小学校

学校だより

令和4年4月28日

令和4年度 第2号

周りの人とのかかわりから

副校長 清水 浩一

新年度が始まりました。新型コロナの影響はまだまだあるものの、これまでのことを考えたとき、一昨年度のような休校もなく、昨年度のような緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令もされていない状況の中で年度初めの一ヶ月を終えようとしていることに、社会全体としては少しですが明るい兆しが見えてきたのかなと感じることがあります。

新年度が始まり、子どもたちの元気な声がたくさん聞こえてきます。校内を回っていると、学習に一生懸命に取り組む姿や休み時間に友達と楽しそうに遊んでいる姿など、子どもたちの様々な姿を目にします。何事もなく健全な学校生活を送ることが理想ですが、成長過程にある多くの子どもたちが共に過ごすため、多少のいざこざやトラブルは生じます。授業だけでなく、そうした体験からも子どもたちは人間関係の調整能力を学びます。子ども同士が本音でぶつかり合い、心を成長させていくことも、学校という集団生活の重要な役割の一つと考えています。トラブルが起こった際には、双方の子どもの話を聞いて事実関係を把握し、上手に仲直りができる、相手を許すことができる、同じ過ちを繰り返さないよう行動できる、そのような子どもたちを育てていきたいと思っています。見守る保護者の皆様にはご心配なこともあるかもしれませんが、気になることがあれば、いつでも学校にご相談いただき、お子さんの成長をご一緒に支えていきたいと思っています。

入学式の学校長の言葉の中に、「これまでは自分がされて嫌なことは人にしてはいけないよ、ということをお教わってきたと思います。そのことに加え、これからは自分が感じる嫌なことと友達を感じる嫌なことは違うということをお学んでほしい。」というような内容がありました。自分の感じ方や考え方を大事にしながらも、相手の感じ方や考え方も尊重していけるようになってほしいと願っています。これからの世の中では、周りの人とのかかわり方や適度な距離の取り方など、人間関係形成能力を学び身につけていくことがますます必要になってくるのではないかと思います。AIなどが台頭してきている時代だからこそ、上手に周りの人とかかわりながら、互いに心を寄せ合い人間味のある温かい世の中をつくらせていくことが大切なのではないかと思います。

これからも子どもたちが温かい環境の中でいろいろな人とかかわりながら成長していけるよう、また、子どもたちの将来をより豊かなものにしていけるよう、今後とも本校の教育活動にご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。